



遙れる春の丘より [長野県北安曇郡白馬村北城] 1986年

向井潤吉 民家を巡る旅路

春
秋
夏
冬



比良春雪 [京都府京都市左京区大原] 1970年

2002年12月1日(日)→2003年3月23日(日)

開館時間 = 午前10時～午後6時 (入館は5時30分まで)

休館日 = 毎週月曜日 (ただし祝日と重なった場合は翌日) 年末年始の休館12月29日(日)～1月3日(金)

観覧料 = 一般200円(160円) 大高生150円(120円) 中小生100円(80円)

65歳以上及び障害者の方100円(80円) ()内は20名以上の団体料金 土・日・休日は小・中学生は無料

世田谷美術館分館
向井潤吉アトリエ館
〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581



春叢 [埼玉県東松山市神戸] 1988年

向井潤吉

民家を巡る旅路

春 夏
秋 冬

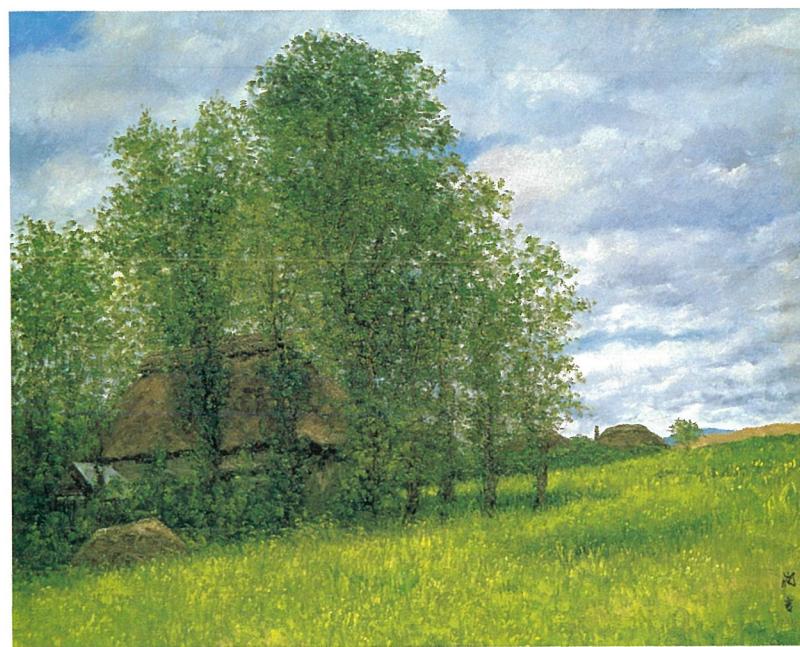
日本の風土の中で育まれてきた草屋根の民家は、それぞれの地方の環境によって、独特な構造やかたちをつくってきました。民家の構造やかたちは、風土と人の営みによって、長い歳月をかけて形成されてきた、自然と人知による造形と言いうことができましょう。

今日において現存する草屋根の民家は、その数を減らし、その姿は、私たちの心に郷愁とも言える心情をしばしば喚起することになり、今や日本の原風景というイメージの一部になっているようです。しかし同時に、民家を取り囲む美しい日本の風土は、とりわけ戦後において、加速度的に減少を続けてきました。

こうした民家を含んだ風景は、いわゆる田園という言葉や表現に集約されますが、それぞれの地域において、その風土や生活、土地に育った産業は異なり、その結果、民家の構造と、その外観は様々な点で差異を示しています。

戦後間もなくから始まった、向井潤吉の民家をもとめる旅は、40数年間という長い歳月を重ねることになり、そこに生まれた数々の作品は、向井が若き日から培ってきた的確な写実力によって、力強くみずみずしい民家の輝きと、美しい日本の風土、風景を今なお伝えることになっています。またそこには、向井潤吉が培ってきた、彼独特の風景へのまなざしと、心情が宿っているものと思われます。

本展では、向井潤吉がその絵筆によって描きとめた民家作品の魅力を、油彩画、水彩画などの諸作品を通じてご紹介いたします。



草原六月 [北海道厚田郡厚田村聚富村] 1967年

世田谷美術館分館 向井潤吉アトリエ館

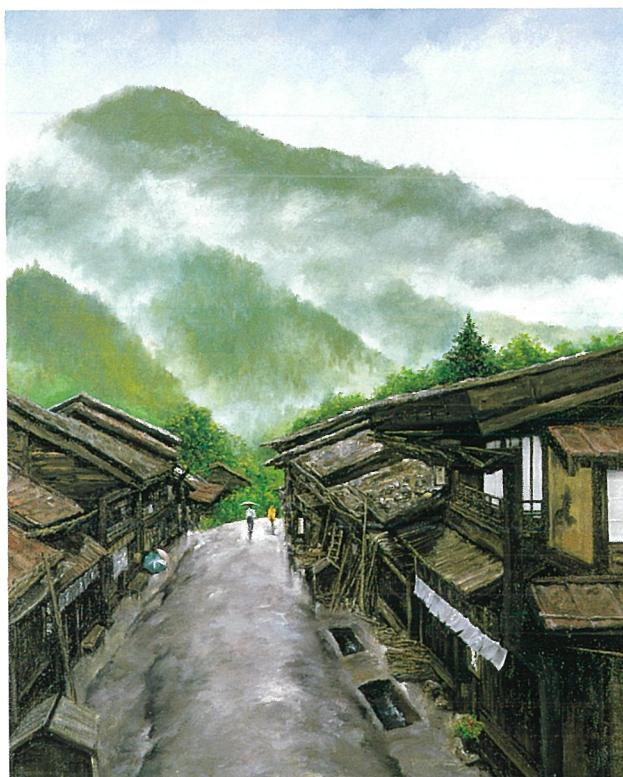
〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581

●最寄り交通機関のご案内

東急田園都市線【駒沢大学】駅 西口 下車／徒歩10分
 東急世田谷線【松陰神社前】駅 下車／徒歩17分
 東急バス(渋05) 渋谷~弦巻営業所 【駒沢中学校】 停留所下車／徒歩3分
 東急バス(等11) 祖師谷折返所~等々力 【駒沢三丁目】 停留所下車／徒歩3分
 東急バス(渋11) 渋谷~田園調布 【駒沢大学駅前】 停留所下車／徒歩10分
 東急バス(渋12) 渋谷~二子玉川 【駒沢大学駅前】 停留所下車／徒歩10分



*は案内板の位置です。



雨後橋下宿 [山形県上山市橋下] 1970年



比良春 [京都府京都市左京区大原] 1970年



比良雨 [長野県木曽郡南木曾町妻籠] 1974年

微雨 [長野県木曽郡南木曾町妻籠] 1974年